

見能林小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的・協働的な学びを通して多様性を認め合い、互いに高め合う子どもを育成するための学習指導の実践

【各校の取組状況の把握について】

- ・学力向上に関する校内研修やアンケートの実施
- ・学年団による話し合い後、文書報告

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組むことができる。 ●漢字や計算などの基礎的、基本的な知識や技能が十分に身につけていない。 ●語彙力が不十分で、初読で文章を読み取る力が十分ではない。	・学習準備を整え、話をしっかりと聞いて、学習に取り組むことができる。 ・漢字や文章、計算など、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。 ・既習の知識を生かして、自分の思いを書いたり、生活や次の学習をしたりすることができる。 ・図書や新聞などを活用し、語彙力を高めている。	・朝の活動において、継続的に漢字、視写、音読、計算などの基礎的・基本的な内容の習得を図る。 ・言葉の宝箱を活用し、日記や文章作りを継続的に行う。 ・読書の楽しさを感じさせることで、進んで読書に取り組めるような環境づくりをする。 ・児童の興味関心を高める補助的な資料や、アプリなどを効果的に活用する。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○知っていることを活用しながら、課題を思案することができる。 ○タブレットの活用で思考の共有が効果的に行え、考えを深めることができるようになってきた。 ●話し合い活動などで、自分の考えを深めたり、相手に伝えたりする力が十分ではない。 ●複数の情報から必要な情報を読み取ることや、再構築することが苦手である。	・考えや思いを適切に表現することができる。 ・他者と意見を交流しながら、自分や全体の考えを深めたり、広げたりして、表現することができる。 ・語彙を増やすことで豊かな表現力をつけたり、順序立てて話をしたりすることができる。	・相手を意識した表現方法や発表の仕方を工夫する。 ・児童の思考につながるよう主発問を吟味し、思考の時間を十分に確保したり、互いの考えを伝え合う時間をとる。 ・徳島版読解力の育成を念頭に置いた授業づくりに取り組む。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○まずは頑張ってみようとする姿勢がある。 ○ICT活用やさまざまな体験活動により、児童の学習意欲が高まってきた。 ●自分の興味関心がない学習については、意欲が低い。 ●指示されたことはできるが、自ら課題を見つけ、解決していこうとする力が弱い。	・学習に意欲的、積極的に取り組み、学ぶ楽しさや分かる喜びを感じることができる。 ・自ら課題を設定し、主体的に課題解決をしようとする事ができる。 ・ICTを活用し、意欲的に学習に取り組むことができる。	・豊かな体験活動や、オンラインの教材を積極的に活用することで、児童が主体的に取り組めるようにする。 ・家庭学習の手引きや自主勉強のよい見本を示し、学習習慣の定着や内容の充実を図る。 ・ICT活用について、教員が研鑽を積み、意識改革を図る。			